

発達障害の可能性のある児童生徒に対する



早期支援研究事業

～2年間の取り組みを通して～

白子町教育委員会



白子町のご紹介



白子町は、豊かな自然に
恵まれた、美しい町。
日々の疲れを癒し、
心も身体も穏やかに
過ごすには
最適な場所です。

- 人口 11,853人
- ＊3保育所 幼児数 260人
- ＊3小学校 児童数 457人
24学級 (うち特別支援学級5)
- ＊1中学校 生徒数 254人
11学級 (うち特別支援学級2)

白子町の教育基本方針

確かな学力の定着と社会性の充実

研究テーマ

発達障害の可能性のある児童生徒の充実した学習と学校生活を実現するための手立ての工夫

H26:活動



I 早期発見

II ニーズに応じた支援

H27:活動



(1) 特コ中心の組織の構築

(2) 白子町版:個別の教育支援計画・個別の指導計画 (ひまわりステップ) の作成と実施

(3) UD (ユニバーサルデザイン) の視点に立った授業実践の推進

(4) つなぐ・広める

(1) 特コ中心の組織の構築

みんなで
支援

みんなで
連携

特コ

(特別支援教育コーディネーター)

地域の方

保護者

関係機関

スクラム白子

教育委員会

- ・植草学園大学・
植草学園短期大学
特別支援教育研究センター
- ・東上総教育事務所
- ・こども発達支援センター
「そらいろ」
- ・つくも幼児教室
- ・大網白里特別支援学校

- 白子町役場関係各課
- ・保健福祉課
- ・住民課

**幼児
児童
生徒**

(1) 白子町版：特コ（特別支援教育コーディネーター）の絶対条件

①校内複数配置



○孤立しない体制

○校内で相談できる

○中学校5名

- ・特別支援学級担任2名
- ・通常学級担任、各学年1名ずつ

○各小学校2名ずつ

- ・特別支援学級担任1名と通常学級担任1名

②活動時間の確保



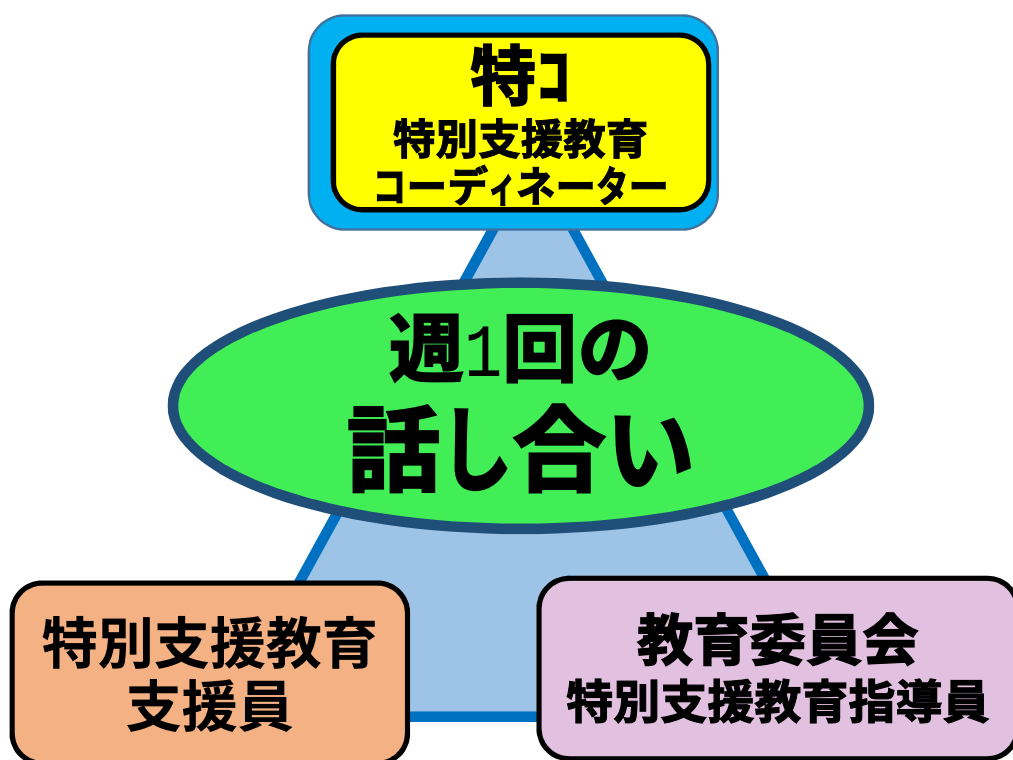
○教室訪問・保育所訪問

- ・幼児、児童、生徒の観察

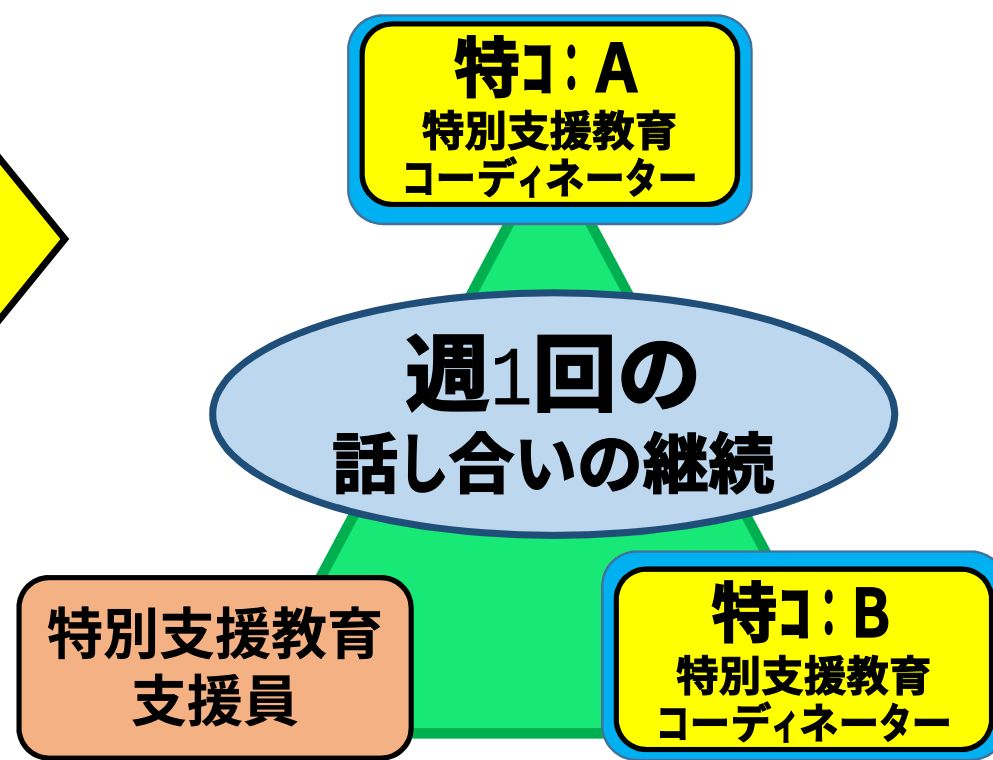
○特別支援教育支援員を交えた定期的な話し合い

(1) 特コを中心とした特別支援教育推進のトライアングル

平成 27年度



平成 28年度



(1) 広報誌「はじめの一步」発行

意識の向上

○月に1回発行
(4校が輪番で担当)

- ・〈表〉通常学級の特別支援教育について
- ・〈裏〉各学校のユニバーサルデザインの視点での学習指導や環境の取り組みを紹介(情報の共有化)

発達障害の可能性のある児童生徒に対する早期支援広報誌

はじめの一步

平成27年7月16日 白子町教

表

「原点は子どもたち」
発達障害の可能性のある児童生徒に
～1年目の取り組みを通して～という
害の特性や支援のヒントが読み取れ
「の財
産」とし、今年度は、さらに児童生徒一人一人への適切な支援に取り
組んでいきたいと思っています。どの子にも必ず良さがあり、必ず成長す
る力を持っている。

～すべては子どもたちのために～ 白子町立関小学校長 濱田 利子

力を合わせて

「発達障害」またその可
能性のある児童が、確実に
増加していることを目の当
たりにしています。特に低
学年の学級では、担任一人
だけでは手が回らないのが
現状です。

「先生、ここがわからない。」と
自分からくる子や、わからない
ままボーンとしている子、ど
ちらの子ども達も「わかりたい」
「ほめられたい」と思う気持
ちは同じです。その想いが実現で
きるような支援をしていくためには、児童一人一人との信頼関
係が重要だと考えています。子どもの目線で見聞き

支援員の先生がフル回転で担任教諭の補助に当たってくだ
さっていますが、まだまだ人手が足りてはいません。私たち
教師ができることは何なのか。子どもやご家族と向かい合い
真剣に考えていくこと、外部機関との連携を図ることはもちろんですが、学校という場です
できる最大限の支援をするためには、教師同士が子どもの様子話し合い、良いアイデアを
出し合うことが大切だと考えます。経験の多少にかかわらず協力を共有し、子どもに関わり、
一緒にその子どもの成長を喜び合うことのできる教師集団で
ありたいと願っています。

特別支援教育コーディネーター 岡澤 加代子

わたしたちの取り組み
授業の中で、こんな工夫を
しています!

裏



(1) 特別支援教育推進会議

白子町 特別支援教育 コーディネーター 4 校合同委員会

- 年間、8回行う
- 各学校2名の特コ・教育委員会課長・特別支援教育指導員参加
- 司会・記録・会場を4校輪番で行い各学校の取り組み（情報交換）などの話し合い

・「児童理解ファイル」や「ひまわりステップ」などについて、話し合うことができて良かった。

・小中共通理解のもと足並みをそろえて進められて良かった。

・校内だけでは対処できないケースについていろいろな意見を頂き、参考になった。

白子町 特別支援教育 支援員会議

- 年間、3回行う
- 各学校1名の特別支援教育支援員・教育委員会課長・特別支援教育指導員参加
- 各学校での取り組み（情報交換）などの話し合い

・困った時の相談ができた。

・支援の方法のヒントがもらえた。

・校内に一人なので、この話し合いで他の学校の様子が分かって情報交換ができた。
・他校の支援員の話聞いて、意欲がわいてきた。

(1) トライアングル：気づきから支援につなげて

特コ
特別支援教育
コーディネーター

週1回の
話し合い

特別支援教育
支援員

教育委員会
特別支援教育導員

校内委員会で相談

特別支援アドバイザーの
アドバイス

- ・植草学園大学・
植草学園短期大学
特別支援教育研究センター
- ・東上総教育事務所
- ・こども発達支援センター「そらいろ」
- ・つくも幼児教室
- ・大網白里特別支援学校

発達検査

個別の教育支援計画・
個別の指導計画
(ひまわりステップ)

校内会議や
特コ、特支教育支援員
会議で支援の方法につ
いて話し合う

(2) ひまわりステップ① (白子町版:個別の指導計画)

○担任が、
取り組みやすく
書きやすい形式

・担任の負担が小さく
書きやすい形式で
良かった

・保育所⇒小学校⇒
中学校と、きちんと
引継ぐことが大切



ひまわりステップ①

(No.)

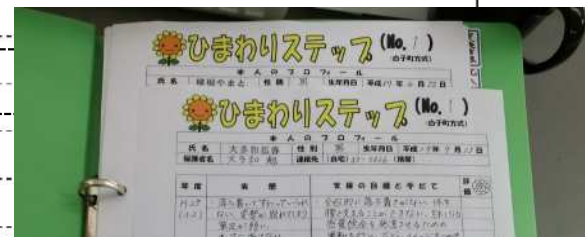
個別の指導計画 (白子町方式)



本人のフロフィール

氏名	性別	生年月日	平成	年	月	日
保護者名	連絡先	(自宅)	(携帯)			

年度	実 態	支援の目標と手だて (合理的配慮)	評価 ○





ひまわりステップ②

学級での支援 (実態)



ひまわりステップ③

学校全体での支援 (実態)



ひまわりステップ②

学級での支援 (実態)

作成日：平成 27 年 9 月 2 日

担任 ○ ○ ○ ○

家族

母 ○ ○ ○
(母子家庭)

3 年 ○ 組

○ ○ ○ ○
さんの支援

放課後・休日の過ごし方

・ゲーム・宿題
・テレビ

得意な学習

・主要な教科、ワーク
テストでは正確な点を取る
・算数が得意

好きなこと (遊び・趣味)

・テレビ
・ゲーム

友達との関わり

・男女とも仲良く遊ぶ。
・お礼や謝罪は、すぐにできる。



ひまわりステップ②

- ・担任が、特コと相談して記入する
- ・ステップ①の中で、多領域で困り感のある幼児・児童・生徒について記入



ひまわりステップ③

学校全体での支援

作成日：平成 27 年 9 月 2 日

担任

3 年 ○ 組

○ ○ ○ ○
さんの支援

支援の基本方針

・視覚、聴覚等の刺激の緩和
・特別支援学級への入級をすすめていく。

① 学級・学年での支援

・少人数学習をできるだけ進める。
・お礼や謝罪は、すぐにできる。

② 教科・専科・通級・TT 担当・養護教諭の支援

＜通級＞ 週 1 時間 特別



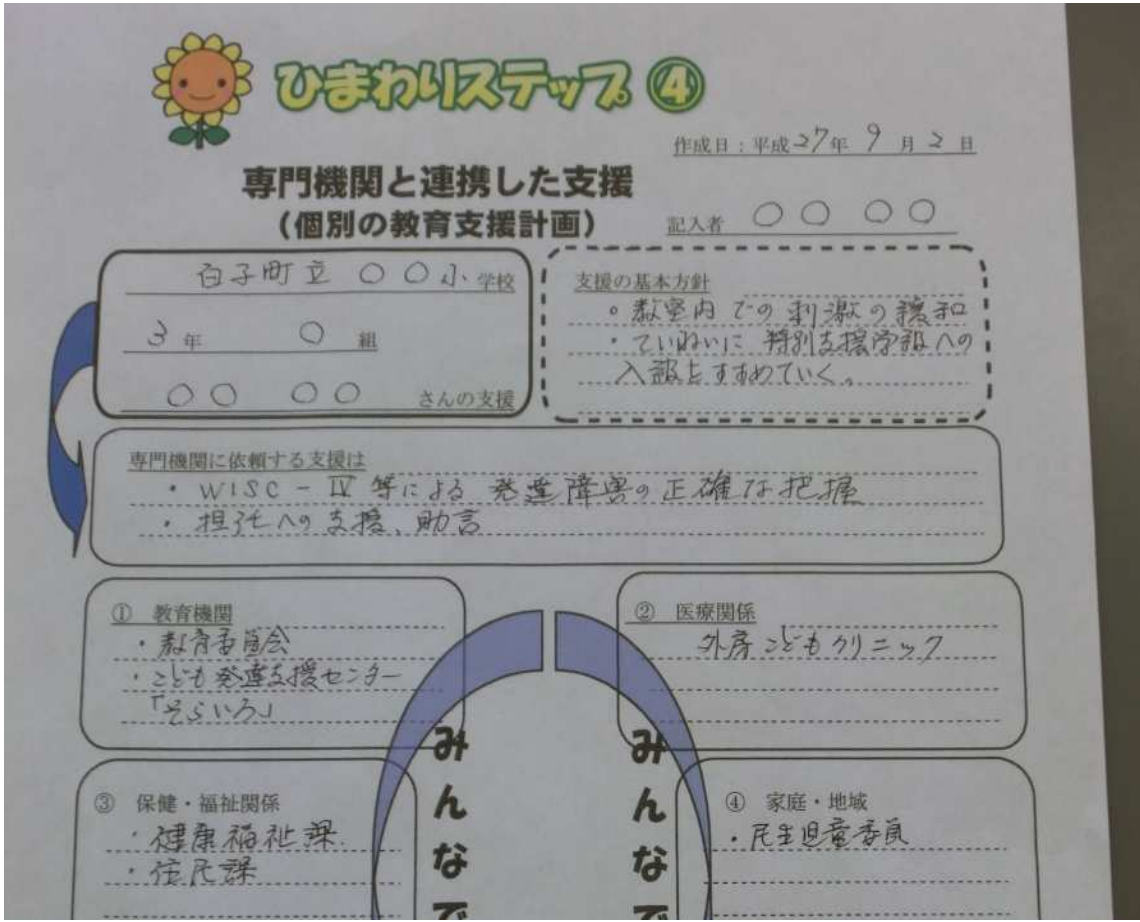
ひまわりステップ③

- ・担任が、特コと相談しながら、学校全体で共通理解した支援が必要な場合記入する

(2) ひまわりステップ④ (白子町版: 個別の教育支援計画) 専門機関との連携

ひまわりステップ④

- ・担任が、特コと相談しながら、専門機関との連携が必要な場合記入する
- ・情報の共有や連携した支援について保護者の了解を得る (署名・押印)
- ・学年末に見直しをする



 ひまわりステップ④

作成日: 平成27年 9 月 2 日

専門機関と連携した支援
(個別の教育支援計画)

記入者: ○ ○ ○ ○

白子町立 ○ ○ 小学校

3 年 ○ 組

○ ○ ○ ○ さんの支援

支援の基本方針

- ・教室内での刺激の緩和
- ・ていねいに 特別支援学級への入部とすすめていく。

専門機関に依頼する支援は

- ・ WISC-IV 等による 発達障害の正確な把握
- ・ 担任への支援、助言

① 教育機関

- ・ 教育委員会
- ・ こども発達支援センター「そらいろ」

② 医療関係

- ・ 外房こどもクリニック

③ 保健・福祉関係

- ・ 健康福祉課
- ・ 住民課

④ 家庭・地域

- ・ 民生児童委員

みんな

みんな



ひまわりステップへの「合理的配慮」の記入の仕方



ひまわりステップ

①

＊「支援の目標と手立て（合理的配慮）」を記入する



ひまわりステップ

④

＊「合理的配慮を行ってみてどうだったか」（評価）の欄を設ける

→ 実施した合理的配慮については評価修正を行う

③ 保健・福祉関係

④ 家庭・地域

⑤ 管理職の支援

⑥ その他

みんな
なで
支
援
み
ん
な
で
連
携

⑦ 合理的配慮を行ってみてどうだったか（評価）

★ひまわりSTEP④の見直しは、
平成 年 月頃の予定

★ひまわりSTEP④の見直したのは、
平成 年 月 日

ひまわりSTEP④ の情報を支援関係者と共有することに同意します。

平成 年 月 日

保護者氏名

印

(3) UD (ユニバーサルデザイン) の視点に立った授業実践の推進

11月26日 白子町立白潟小学校 公開

研究主題

自分の考えをもち、表現できる子どもの育成

ーユニバーサルデザインの視点を取り入れた国語科の学習ー



今日的課題から

インクルーシブ教育の
推進・制度化

発達障害の
可能性のある
児童の顕在化

発達障害の可能性
のある児童への
早期支援の有効性

入級など適切な
学習環境を
保持することの困難さ

学びのユニバーサルデザインの視点

焦点化＝シンプル

視覚化＝ビジュアル

共有化＝シェア

<焦点化>

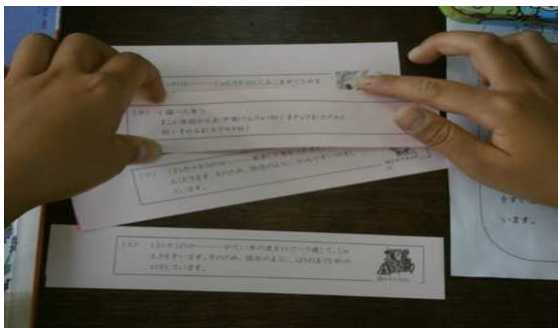
2年生

教師モデルでねらいや
本時の内容を分かりやすく



3年生

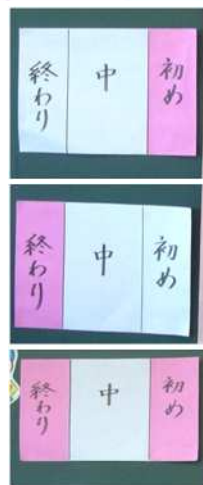
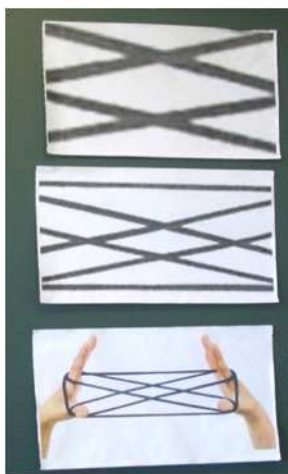
順序を入れかえたり、違
う文を入れたりして、文章
全体の構成をつかませる



<視覚化>

5年生

挿絵のアップ・あや取り
の実演で興味を持たせる



<共有化>

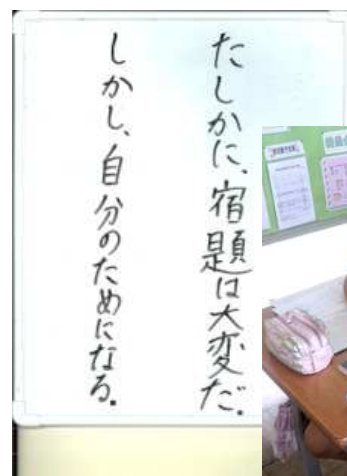
3年生

意見の交流



5年生

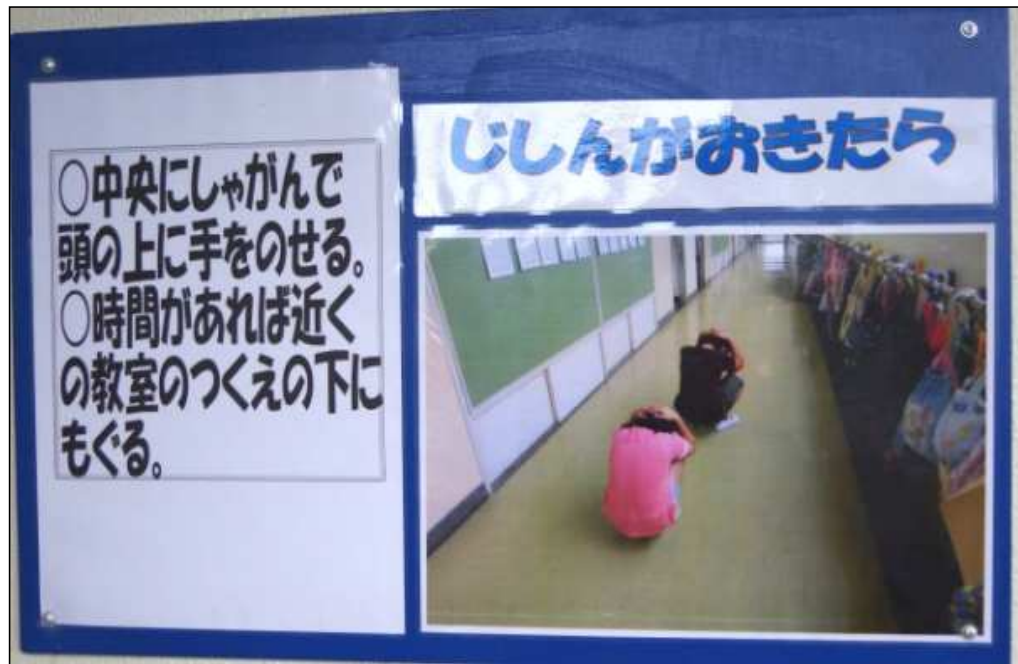
ホワイトボードの
活用



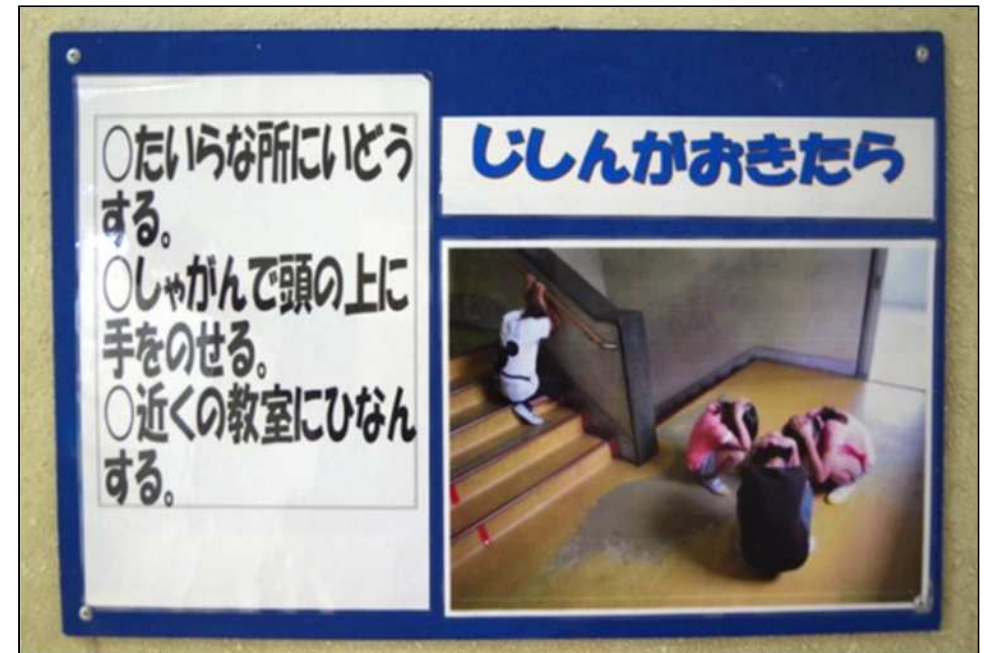
(3) <環境のユニバーサルデザイン> 白潟小学校

地震が起きたときの対応を、場所ごとに写真と言葉で示した

廊 下



階 段



(4) つなぐ・ひろめる

みんなで
支援

みんなで
連携

関係機関

保護者・地域の方

教育委員会

保育所・小学校・中学校

保健福祉課

住民票

白子町役場
関係各課

発達支援センター
「そらいろ」
つくも幼児教室

大網白里
特別支援学校

東上総
教育事務所

植草学園大学・
短期大学
特別支援教育
研究センター

(4) つなぐ・広める 保育所の早期発見・早期支援の取り組み



ひまわりステップ① (No.)

個別の指導計画 (白子町方式)

本人のフロフィール					
氏名		性別		生年月日	平成 年 月 日
保護者名		連絡先	(自宅)		(携帯)

年度	実 態	支援の目標と手だて (合理的配慮)	評価 ○
	・保育所から中学校まで書き加えていく ・全体で情報を共有する		
	 ひまわりステップ ・支援アドバイス集 アドバイスブック		

乳幼児発達スケール「KIDS」の導入



- ・発達段階がグラフ化され、発達が比較できる
- ・質問事項が保育活動や体験活動のヒントとなり、ステップアップしていく成長過程が分かる
- ・幼児に必要な具体的な支援が分かる (支援アドバイス集、アドバイスブック)

(4) つなぐ・広める 保育所の早期発見・早期支援の取り組み

植草学園大学特別支援教育研究センター 「インクルーシブ保育研究セクション」事業の活用



① 幼児観察



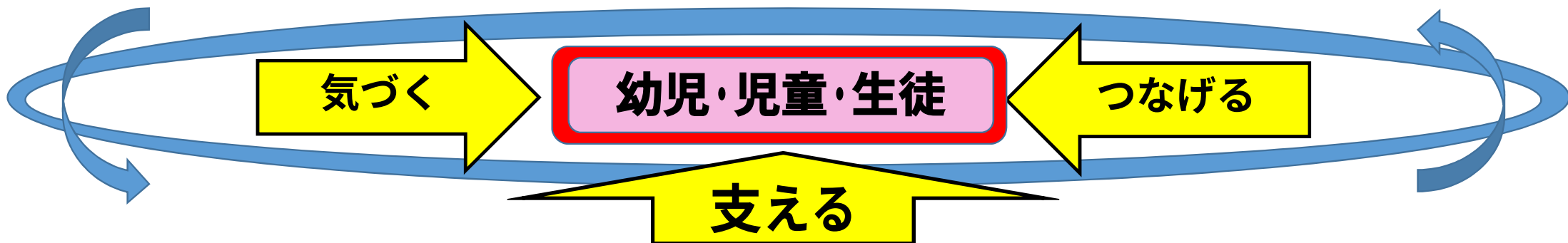
② 具体的支援方法の助言

感想から



③ 講演会：木下勝世先生
『インクルーシブ保育—その意味と課題』

- ・その子のニーズに応じた支援の大切さ、全ての子どもが共に育つ保育の重要性を改めて感じた
- ・「叱る前に、まずトラブルを起こさない保育対応」の大切さを考えた
- ・子どもに対してだけでなく、保育者の本音も交えた具体的事例を含めた講演だったので保育者として力を頂いた



ADHDの診断

6才児 A

- ・保護者
- ・乳幼児健診
- ・つくも幼児教室担当者

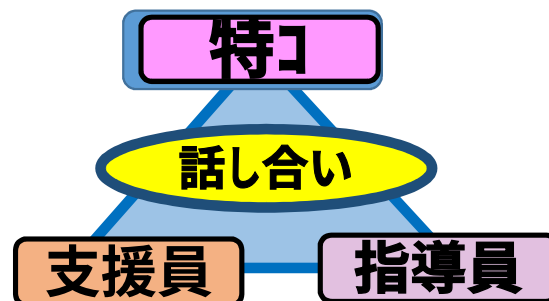
就学に当たって

- ①教育委員会
- ②保健福祉課
- ③住民課
- ④つくも幼児教室 担当者

- 白子町と外部機関が見守り、相談助言を続ける
- 今までの協力体制を生かして、学校生活が送れるようにする

見え方に困り感 小学2年生 B

- ・保護者
- ・担任
- ・ことばの教室担当者



- 総合教育センターに相談、見え方に対する支援の助言を受ける
- 学校全体で支援方法を共通理解する

(4) つなぐ・広める
保護者・地域と共に

意識の向上
講演会の開催

H27.7.21

こども発達支援センター「そらいろ」
センター長

中島 展先生

『みんなで考え、支える子育て』

教育講演会のお知らせ



ポスターを作って
保護者・町民に
呼びかける

保護者・地域の方
参加の講演会
90名余り参加



H27.11.26

植草学園短期大学教授

佐

藤 慎二先生

『通常学級の“特別”ではない支援教育・

ユニバーサルデザイン



地域の学校と共に・・・
170名余り参加

2月4日植草学園大学准教授

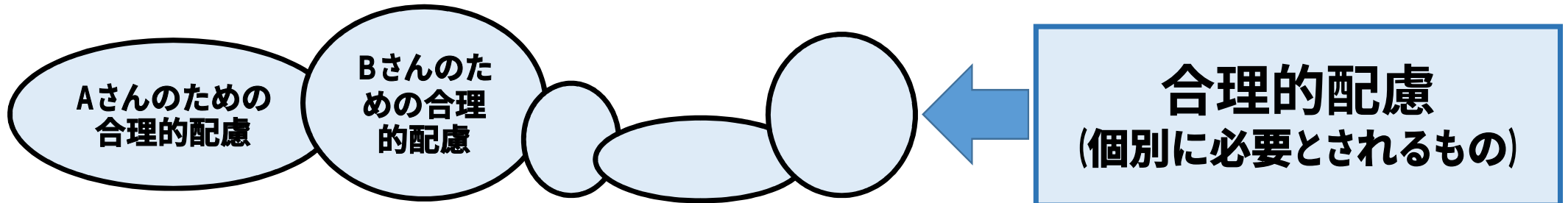
加藤悦子先生 講演会

「分かった！できた！うれしい！のために
～インクルーシブ教育がめざすもの～」





基礎的環境整備と合理的配慮



合理的配慮の基礎となる環境整備(基礎的環境整備)

- (1) ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
- (2) 専門性のある指導体制の確保
- (3) 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
- (4) 教材の確保
- (5) 施設・設備の整備
- (6) 専門性のある教員・支援員等の人的配置
- (7) 個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
- (8) 交流及び共同学習の推進



重点的に取り組んでいる基礎的環境整備



(2) 専門性のある指導体制の確保

- ・特コ中心の組織の構築
- ・特コの絶対条件
- ・トライアングルの話し合い
- ・校内特別支援委員会
- ・白子町特コ4校合同委員会
- ・特別支援教育支援員会議

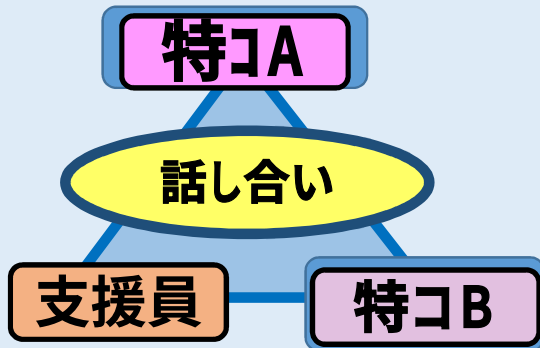
(3) 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

- ・白子町版：個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成
( ひまわりステップ①②③④)

(6) 専門性のある教員・支援員等の人的配置

- ・各学校2名以上の、特別支援教育コーディネーター
- ・特別支援教育支援員 各学校1名
- ・特別支援教育指導員2名

白子から発信するもの



◎特コの絶対条件

- ＊特コ^①の複数配置
＊特別支援教育の活動時間の確保（週2時間）



◎白子版「ひまわりステップ」の活用

- ＊「書きやすく、使いやすい」困り感のある子のための個別の教育支援計画・指導計画
- ＊保育所・小学校・中学校のなめらかな連携
- ＊合理的配慮の記入



ひまわりステップ① (No.)

個別の指導計画（白子町方式）

[illegible]

成果と課題から今後へ

○成果

- ・特コ中心の活動体制が構築された
- ・『特別支援教育推進のトライアングル』が町内、校内で機能するようになった
- ・『スクラム白子』として関係機関との連携が構築された
- ・支援の必要な幼児・児童・生徒に対して、個人に必要な支援の方法や合理的配慮について検討され対応できるようになった
- ・教職員・保護者・地域住民の理解や意識が高まった

◎課題

- ・教職員の特別支援教育の専門知識を深め、学級経営力や学習指導力のより一層の向上に努める
- ・校内特別支援委員会と生徒指導委員会の連携を図る
- ・特別支援教育に対する地域理解、地域教育を一層推進する
- ・合理的配慮の提供について、研修を深めていく